

【職業・家庭】【職業】【家庭】 目標・内容表

特別支援学校学習指導要領（文部科学省）参照

学部	中学部		高等部	
教科の目標	生活の営みに係る見方・考え方や職業の見方・考え方を働かせ、生活や職業に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		【職業科】職業に係る見方・考え方を働かせ、職業など卒業後の進路に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 【家庭科】生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
知識及び技能	(1) 生活や職業に対する関心を高め、将来の家庭生活や職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。		【職業科】 (1) 職業に関する事柄について理解を深めるとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付けるようにする。 【家庭科】 家族・家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	(2) 将来の家庭生活や職業生活に必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、自分の考えを表現するなどして、課題を解決する力を養う。		【職業科】 (2) 将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、表現する力を養う。 【家庭科】 家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。	
学びに向かう力、人間性等	(3) よりよい家庭生活や将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。		【職業科】 (3) よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への貢献に向けて、生活を改善しようとする実践的な態度を養う。 【家庭科】 家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。	
段階の目標	職業分野		職業科	
	1段階	2段階	1段階	2段階
	職業に係る見方・考え方を働かせ、作業や実習に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	職業に係る見方・考え方を働かせ、作業や実習に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	ア 職業について関心をもち、将来の職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。	ア 働くことに対する関心を高め、将来の職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。	ア 職業に関する事柄について理解するとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付けるようにする。	ア 職業に関する事柄について理解を深めるとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 将来の職業生活に必要な事柄について触れ、課題や解決策に気付き、実践し、学習したことを伝えるなど、課題を解決する力の基礎を養う。	イ 将来の職業生活に必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践し、学習したことを振り返り、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。	イ 将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価し、表現する力を養う。	イ 将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、表現する力を養う。
学びに向かう力、人間性等	ウ 将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫しようとする態度を養う。	ウ 将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。	ウ よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への参画に向けて、生活を工夫しようとする実践的な態度を養う。	ウ よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への貢献に向けて、生活を改善しようとする実践的な態度を養う。

学部	中学部		高等部	
内容	1段階	2段階	1段階	2段階
A 職業生活	ア 働くことの意義 働くことに興味をもち、作業や実習等に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 働くことの意義 働くことに対する意欲や関心を高め、他者と協力して取り組む作業や実習等に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 勤労の意義 勤労に対する意欲や関心を高め、他者と協働して取り組む作業や実習等に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 勤労の意義 勤労に対する意欲や関心を高め、他者と協働して取り組む作業や実習等に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 働くことの目的などを知ること。	(ア) 働くことの目的などを理解すること。	(ア) 勤労の意義を理解すること。	(ア) ア 勤労の意義について理解を深めること。
	(イ) 意欲や見通しをもって取り組み、自分の役割について気付くこと。	(イ) 意欲や見通しをもって取り組み、自分と他者との関係や役割について考えること。	(イ) 意欲や見通しをもって取り組み、その成果や自分と他者との役割及び他者との協力について考え、表現すること。	(イ) 目標をもって取り組み、その成果や自分と他者との役割及び他者との協力について考え、表現すること。
	(ウ) 作業や実習等で達成感を得ること。	(ウ) 作業や実習等に達成感を得て、進んで取り組むこと。	(ウ) 作業や実習等に達成感を得て、計画性をもって主体的に取り組むこと。	(ウ) 作業や実習等を通して貢献する喜びを体得し、計画性をもって主体的に取り組むこと。
	イ 職業 職業に関わる事柄について、考えたり、体験したりする学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 職業 職業に関わる事柄について、考えを深めたり、体験したりする学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 職業 職業に関わる事柄について、他者との協働により考えを深めたり、体験したりする学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 職業 職業に関わる事柄について、他者との協働により考えを深めたり、体験したりする学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。 ㉞ 職業生活に必要な知識や技能について知ること。 ㉟ 職業生活を支える社会の仕組み等があることを知ること。 ㊱ 材料や育成する生物等の扱い方及び生産や生育活動等に関わる基礎的な技術について知ること。 ㊲ 作業課題が分かり、使用する道具等の扱い方に慣れること。 ㊳ 作業の持続性や巧緻性などを身に付けること。	(ア) 職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。 ㉞ 職業生活に必要な知識や技能を理解すること。 ㉟ 職業生活を支える社会の仕組み等があることを理解すること。 ㊱ 材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生育活動等に関わる基礎的な技術について理解すること。 ㊲ 作業課題が分かり、使用する道具や機械等の扱い方を理解すること。 ㊳ 作業の確実性や持続性、巧緻性などを身に付けること。	(ア) 職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。 ㉞ 職業生活に必要とされる実践的な知識及び技能を身に付けること。 ㉟ 職業生活を支える社会の仕組み等の利用方法を理解すること。 ㊱ 材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生育活動等に関わる技術について理解すること。 ㊲ 使用する道具や機械等の特性や扱い方を理解し、作業課題に応じて正しく扱うこと。 ㊳ 作業の確実性や持続性、巧緻性などを高め、状況に応じて作業すること。	(ア) 職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。 ㉞ 職業生活に必要とされる実践的な知識を深め技能を身に付けること。 ㉟ 職業生活を支える社会の仕組み等の利用方法について理解を深めること。 ㊱ 材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生育活動等に関わる技術について理解を深めること。 ㊲ 使用する道具や機械等の特性や扱い方の理解を深め、作業課題に応じて効果的に扱うこと。 ㊳ 作業の確実性や持続性、巧緻性などを高め、状況に応じて作業し、習熟すること。
	(イ) 職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。 ㉞ 職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について気付くこと。 ㉟ 作業に当たり安全や衛生について気付き、工夫すること。 ㊱ 職業生活に必要な健康管理について気付くこと。	(イ) 職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。 ㉞ 職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について、考えて、発表すること。 ㉟ 作業上の安全や衛生及び作業の効率について考えて、工夫すること。 ㊱ 職業生活に必要な健康管理について考えること。	(イ) 職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。 ㉞ 作業や実習における役割を踏まえて、自分の成長や課題について考え、表現すること。 ㉟ 生産や生育活動等に関わる技術について考えること。 ㊱ 作業上の安全や衛生及び作業の効率について考え、改善を図ること。 ㊲ 職業生活に必要な健康管理や余暇の過ごし方について考えること。	(イ) 職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。 ㉞ 作業や実習において、自ら適切な役割を見出すとともに、自分の成長や課題について考え、表現すること。 ㉟ 生産や生育活動等に係る技術に込められた工夫について考えること。 ㊱ 作業上の安全や衛生及び作業の効率について考え、他者との協働により改善を図ること。 ㊲ 職業生活に必要な健康管理や余暇の過ごし方の工夫について考えること。

学部	中学部		高等部	
内容	1段階	2段階	1段階	2段階
B 情報機器の活用	職業生活で使われるコンピュータ等の情報機器に触れることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	職業生活や社会生活で使われるコンピュータ等の情報機器を扱うことに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	職業生活で使われるコンピュータ等の情報機器を扱うことに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	職業生活や社会生活で使われるコンピュータ等の情報機器を扱うことに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	ア コンピュータ等の情報機器の初歩的な操作の仕方を知ること。	ア コンピュータ等の情報機器の基礎的な操作の仕方を知り、扱いに慣れること。	ア 情報セキュリティ及び情報モラルについて知るとともに、表現、記録、計算、通信等に係るコンピュータ等の情報機器について、その特性や機能を知り、操作の仕方が分かり、扱えること。	ア 情報セキュリティ及び情報モラルについて理解するとともに、表現、記録、計算、通信等に係るコンピュータ等の情報機器について、その特性や機能を理解し、目的に応じて適切に操作すること。
	イ コンピュータ等の情報機器に触れ、体験したことなどを他者に伝えること。	イ コンピュータ等の情報機器を扱い、体験したことや自分の考えを表現すること。	イ 情報セキュリティ及び情報モラルを踏まえ、コンピュータ等の情報機器を扱い、収集した情報をまとめ、考えたことを発表すること。	イ 情報セキュリティ及び情報モラルを踏まえ、コンピュータ等の情報機器を扱い、収集した情報をまとめ、考えたことについて適切に表現すること。
C 産業現場等における実習	実際の学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	実際の学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	産業現場等における実習を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	産業現場等における実習を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	ア 職業や進路に関わることについて関心をもったり、調べたりすること。	ア 職業や進路に関わることについて調べて、理解すること。	ア 職業など卒業後の進路に必要となることについて理解すること。	ア 職業など卒業後の進路に必要となることについて理解を深めること。
	イ 職業や職業生活、進路に関わることについて、気付き、他者に伝えること。	イ 職業や職業生活、進路に関わることと自己の成長などについて考えて、発表すること。	イ 産業現場等における実習での自己の成長について考えたことを表現すること。	イ 産業現場等における実習で課題の解決について考えたことを表現すること。

学部	中学部		高等部	
段階の目標	家庭分野		家庭科	
	1段階	2段階	1段階	2段階
	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。		
知識及び技能	ア 家庭の中の自分の役割に気付き、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	ア 家族や自分の役割について理解し、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	ア 家族・家庭の機能について理解し、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	ア 家族・家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 家庭生活に必要な事柄について触れ、課題や解決策に気付き、実践し、学習したことを伝えるなど、日常生活において課題を解決する力の基礎を養う。	イ 家庭生活に必要な事柄について考え、課題を設定し、解決策を考え、実践し、学習したことを振り返り、考えたことを表現するなど、日常生活において課題を解決する力を養う。	イ 家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。	イ 家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。
学びに向かう力、人間性等	ウ 家族や地域の人々とのやりとりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫しようとする態度を養う。	ウ 家族や地域の人々とのやりとりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。	ウ 家族や地域の人々との関わりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。	ウ 家族や地域の人々との関わりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。
内容	1段階	2段階	1段階	2段階
A 家族・家庭生活	ア 自分の成長と家族 自分の成長に気付くことや家族のことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 自分の成長と家族 自分の成長と家族や家庭生活などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 自分の成長と家族 自分の成長と家族や家庭生活などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 自分の成長と家族 自分の成長と家族や家庭生活などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 自分の成長を振り返りながら、家庭生活の大切さを知ること。	(ア) 自分の成長を振り返り、家庭生活の大切さを理解すること。	(ア) 自分の成長と家族や家庭生活との関わりが分かり、家庭生活が家族の協力によって営まれていることに気付くこと。	(ア) 自分の成長と家族や家庭生活の関わりが分かり、家庭生活が家族の協力によって営まれていることを理解すること。
	(イ) 家族とのやりとりを通して、家族を大切にする気持ちを育み、よりよい関わり方について気付き、それらを他者に伝えること。	(イ) 家族とのやりとりを通して、家族を大切にすることを育み、よりよい関わり方について考え、表現すること。	(イ) 家族とのよりよい関わり方について考え、表現すること。	(イ) 家族とのよりよい関わり方について考え、工夫すること。
	イ 家庭生活と役割 家庭の中での役割などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 家庭生活と役割 家庭生活での役割などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 家庭生活での役割と地域との関わり 家族との触れ合いや地域の人々と接することなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 家庭生活での役割と地域との関わり 家族や地域の人々などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 家庭における役割や地域との関わりについて関心を持ち、知ること。	(ア) 家庭における役割や地域との関わりについて調べて、理解すること。	(ア) 家庭生活において、地域の人々との協力が大切であることに気付くこと。	(ア) 家庭生活において、地域の人々との協力が大切であることを理解すること。
	(イ) 家庭生活に必要なことや自分の果たす役割に気付き、それらを他者に伝えること。	(イ) 家庭生活に必要なことに関して、家族の一員として、自分の果たす役割を考え、表現すること。	(イ) 家族と地域の人々とのよりよい関わり方について考え、表現すること。	(イ) 家庭と地域の人々とのよりよい関わり方について考え、工夫すること。
	ウ 家庭生活における余暇 家庭における余暇の過ごし方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ 家庭生活における余暇 家庭生活における健康や余暇に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ 家庭生活における余暇 家庭における余暇の過ごし方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ 家庭生活における健康管理と余暇 家庭生活における健康管理や余暇に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
(ア) 健康や様々な余暇の過ごし方について知り、実践しようとする。	(ア) 健康管理や余暇の過ごし方について理解し、実践すること。	(ア) 健康管理や余暇の有効な過ごし方について理解し、実践すること。	(ア) 健康管理や余暇の有効な過ごし方について理解を深め、実践すること。	
(イ) 望ましい生活環境や健康及び様々な余暇の過ごし方について気付き、工夫すること。	(イ) 望ましい生活環境や健康管理及び自分に合った余暇の過ごし方について考え、表現すること。	(イ) 健康管理や余暇の有効な過ごし方について考え、表現すること。	(イ) 健康管理や余暇の有効な過ごし方について考え、工夫すること。	

学部	中学部		高等部	
内容	1段階	2段階	1段階	2段階
A 家族・家庭生活	エ 幼児の生活と家族 幼児と接することなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	エ 家族や地域の人々との関わり 家族との触れ合いや地域の人々と接することなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	エ 乳幼児や高齢者などの生活 乳幼児や高齢者と接することなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	エ 乳幼児や高齢者などの生活 乳幼児や高齢者と接することなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 幼児の特徴や過ごし方について知ること。	(ア) 地域生活や地域の活動について調べて、理解すること。	(ア) 乳幼児や高齢者などの生活の特徴、乳幼児や高齢者などとの関わり方について気付くこと。	(ア) 乳幼児や高齢者などの生活の特徴が分かり、乳幼児や高齢者などとの関わり方について理解すること。
	(イ) 幼児への適切な関わり方について気付き、それらを他者に伝えること。	(イ) 家族との触れ合いや地域生活に関心を持ち、家族や地域の人々と地域活動への関わりについて気付き、表現すること。	(イ) 乳幼児や高齢者などとのよりよい関わり方について考え、表現すること。	(イ) 乳幼児や高齢者などとのよりよい関わり方について考え、工夫すること。
B 衣食住の生活	ア 食事の役割 食事の仕方や食事の大切さに気付くことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 食事の役割 楽しく食事をするための工夫などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 食事の役割 食事の役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 必要な栄養を満たす食事 自分に必要な栄養を満たす食事に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 健康な生活と食事の役割について知ること。	(ア) 健康な生活と食事の役割や日常の食事の大切さを理解すること。	(ア) 生活の中で食事が果たす役割について理解すること。	(ア) 自分に必要な栄養素の種類と働きが分かり、食品の栄養的特質について理解すること。
	(イ) 適切な量の食事を楽しくとることの大切さに気付き、それらを他者に伝えること。	(イ) 日常の食事の大切さや規則正しい食事の必要性を考え、表現すること。	(イ) 健康によい食習慣について考え、工夫すること。	(イ) 一日分の献立について考え、工夫すること。
		イ 栄養を考えた食事 バランスのとれた食事について考えることに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
		(ア) 身体に必要な栄養について関心を持ち、理解し、実践すること。		
		(イ) バランスのとれた食事について気付き、献立などを工夫すること。		
	イ 調理の基礎 必要な材料を使って食事の準備をすることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ 調理の基礎 食事の準備や調理の仕方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 日常食の調理 日常食の調理に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 日常食の調理 日常食の調理に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
(ア) 簡単な調理の仕方や手順について知り、できるようにすること。	(ア) 調理に必要な材料の分量や手順などについて理解し、適切にできること。	(ア) 日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択、食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理、材料に適した加熱調理の仕方について知り、基礎的な日常食の調理ができること。	(ア) 日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択、食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理、材料に適した加熱調理の仕方について理解し、基礎的な日常食の調理が適切にできること。	
(イ) 簡単な調理計画について考えること。	(イ) 調理計画に沿って、調理の手順や仕方を工夫すること。	(イ) 基礎的な日常食の調理について、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、表現すること。	(イ) 基礎的な日常食の調理について、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、工夫すること。	

学部	中学部		高等部	
内容	1段階	2段階	1段階	2段階
B 衣食住の生活	ウ 衣服の着用と手入れ 衣服の着方や手入れの仕方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	エ 衣服の着用と手入れ 衣服の手入れや洗濯の仕方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ 衣服の選択 衣服の選択に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ 衣服の手入れ 衣服の手入れに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 場面に応じた日常着の着方や手入れの仕方などについて知り、実践しようとする事	(ア) 日常着の使い分けや手入れの仕方などについて理解し、実践すること。	(ア) 衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解すること。	(ア) 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解し、適切にできること。
	(イ) 日常着の着方や手入れの仕方に気付き、工夫すること。	(イ) 日常着の快適な着方や手入れの仕方を考え、工夫すること。	(イ) 衣服の選択について考え、工夫すること。	(イ) 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて考え、工夫すること。
			エ 布を用いた製作 布を用いた製作に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	エ 布を用いた製作 布を用いた製作に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			(ア) 目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いについて理解し、適切にできること。	(ア) 製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解すること。
			(イ) 目的に応じた縫い方について考え、工夫すること。	(イ) 布を用いた簡単な物の製作計画を考え、製作を工夫すること。
C 消費生活・環境	ア 身近な消費生活 買物の仕組みや必要な物の選び方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 身近な消費生活 身近な消費生活について考えることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 消費生活 消費生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 消費生活 消費生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 生活に必要な物の選び方、買い方、計画的な使い方などについて知り、実践しようとする事。	(ア) 生活に必要な物の選択や扱い方について理解し、実践すること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ⑦ 購入方法や支払方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性に気付くこと。 ⑧ 売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解し、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理ができること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ⑦ 購入方法や支払方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解すること。 ⑧ 売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解し、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできること。
	(イ) 生活に必要な物を選んだり、物を大切に使うこと。	(イ) 生活に必要な物について考えて選ぶことや、物を大切に使う工夫をすること。	(イ) 物資・サービスの選択に必要な情報を活用して購入について考え、表現すること。	(イ) 物資・サービスの選択に必要な情報を活用して購入について考え、工夫すること。
	イ 環境に配慮した生活 身近な生活の中で環境に配慮することに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 環境に配慮した生活 自分の生活と環境との関連などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 消費者の基本的な権利と責任 消費者の基本的な権利と責任に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 消費者の基本的な権利と責任 消費者の基本的な権利と責任に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 身近な生活の中で、環境に配慮した物の使い方などについて知り、実践しようとする事。	(ア) 身近な生活の中で環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解し、実践すること。	(ア) 消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について気付くこと。	(ア) 消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解すること。
	(イ) 身近な生活の中で、環境に配慮した物の使い方などについて考え、工夫すること。	(イ) 身近な生活の中で、環境との関わりや環境に配慮した生活について考えて、物の使い方などを工夫すること。	(イ) 身近な消費生活について、自立した消費者として責任ある消費行動を考え、表現すること。	(イ) 身近な消費生活について、自立した消費者として責任ある消費行動を考え、工夫すること。